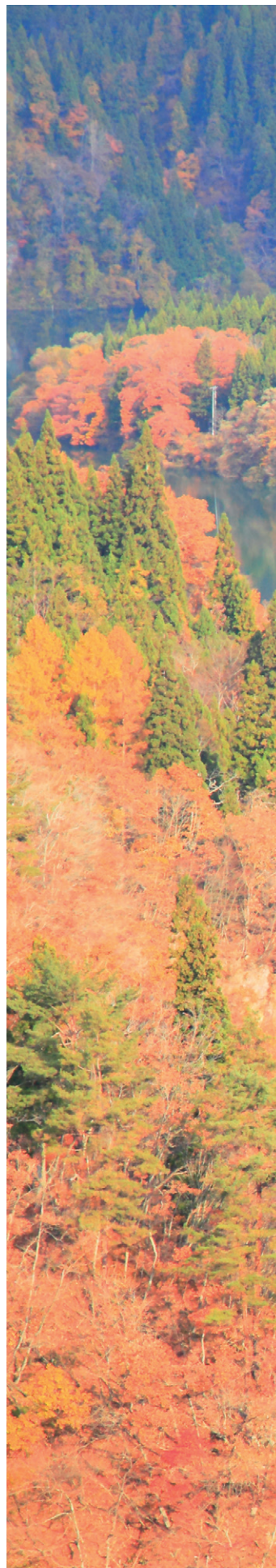




# 会長からの メッセージ

第20回



# 逞しい想像力、積極的な発信、そして実行

土木学会第100代会長

小野 武彦



が、これらを確実に行うことは本当に難しいのです。正しいことをきちんと言葉で伝えたり、計画どおりに実行するには、うるさがられたり、時には嫌われても、強い信念を持つて臨まなければならない時があります。また、相手を説得するためには、目先の事象だけにとらわれるのではなく、その事象の先にあるものを想像し、それを明確にメッセージにして伝える必要があります。その立場にある者には、自らの責任を強く認識し、あるべき姿を実現させるためにいかに振る舞うべきかを常に自問することが求められます。

こうした姿勢は、建設現場の安全管理に限って必要なことではありません。たとえば、プロジェクトの企画・設計・施工の各段階において、その担当者たちが常にプロジェクト全体を俯瞰した上で、想像力を働かせて不具合を予見・防止する

ということが大切ではないでしょうか。それでこそ、自らの豊富な経験や高い見識が生きてくるものと思います。そして、自分の考えを正確に伝えるために積極的にコミュニケーションする姿勢こそが、技術者の幅を広げ、昨今危惧されている、いわゆる「垣根」や「隙間」の解消につながってくるものと考えます。

若手の土木学会員の方には、技術交流の場に積極的に参加し、専門外のことにもっと興味を持ち、自分の「殻」に閉じこもらず行動半径を広げることで、知識に裏打ちされた物申せる人材となれることを大いに期待します。ベテランの土木学会員の方には、若い力が伸び伸び発揮される環境をつくることも、ここぞという時には、うるさがられようとも自分の経験を伝えるべく大いに議論をして、土木界をよりよい方向に導いていただきたいと思えます。

残念ながら施工プロセスの不具合に起因する労働災害の発生が続いています。土木工事に関わる労働災害は、工事従事者のみならず、時として一般市民にも大きな影響を与えます。労働災害における建設産業の死亡者数は、私が社会人となった1968(昭和43)年では、2470人、全産業に占める割合は41%でしたが、2011(平成23)年には、342人、33%と大き

く改善されてきてはいるものの、建設産業の就業者数が全産業比でいずれの時期も7〜8%であることを考えると、依然として危険度の高い産業であるといえます。10年ほど前、地方勤務時代に、ある労働基準監督署の女性署長の方から言われたことを鮮明に覚えています。「私は男性社会で仕事をしています。男性社会には、時として『あうんの呼吸』が必要ですよ。

でも安全の世界では『あうんの呼吸』は絶対にやめましょう。また、大手建設会社が提出する安全計画書類は本当に立派で感心します。でも、その通りに実行することこそが大切です。」

このことは、建設現場において、正しく伝えることと、決めたことを決めたとおりに実行することの大切さを指導していただいたもので、簡単なことと思われるのです

が、これらを確実に行うことは本当に難しいのです。正しいことをきちんと言葉で伝えたり、計画どおりに実行するには、うるさがられたり、時には嫌われても、強い信念を持つて臨まなければならない時があります。また、相手を説得するためには、目先の事象だけにとらわれるのではなく、その事象の先にあるものを想像し、それを明確にメッセージにして伝える必要があります。その立場にある者には、自らの責任を強く認識し、あるべき姿を実現させるためにいかに振る舞うべきかを常に自問することが求められます。

こうした姿勢は、建設現場の安全管理に限って必要なことではありません。たとえば、プロジェクトの企画・設計・施工の各段階において、その担当者たちが常にプロジェクト全体を俯瞰した上で、想像力を働かせて不具合を予見・防止する

ということが大切ではないでしょうか。それでこそ、自らの豊富な経験や高い見識が生きてくるものと思います。そして、自分の考えを正確に伝えるために積極的にコミュニケーションする姿勢こそが、技術者の幅を広げ、昨今危惧されている、いわゆる「垣根」や「隙間」の解消につながってくるものと考えます。

若手の土木学会員の方には、技術交流の場に積極的に参加し、専門外のことにもっと興味を持ち、自分の「殻」に閉じこもらず行動半径を広げることで、知識に裏打ちされた物申せる人材となれることを大いに期待します。ベテランの土木学会員の方には、若い力が伸び伸び発揮される環境をつくることも、ここぞという時には、うるさがられようとも自分の経験を伝えるべく大いに議論をして、土木界をよりよい方向に導いていただきたいと思えます。